

大槻裕子教授 略歴・業績目録

I 略 歴

1939年11月24日 兵庫県川西市に生まれる

学 歴

1959年4月 大阪女子大学学芸学部福祉学科入学
 1963年3月 大阪女子大学学芸学部福祉学科卒業
 1964年4月 大阪大学文学部独語独文学科編入学
 1966年3月 大阪大学文学部独語独文学科卒業
 1966年4月 大阪大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程入学
 1968年3月 大阪大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程修了（文学修士）

職 歴

1963年4月 富士色素株式会社入社
 1964年3月 富士色素株式会社退社
 1969年4月 大阪経済大学教養部助手
 1972年6月 大阪経済大学教養部専任講師
 1973年4月 神戸大学教養部非常勤講師（ドイツ語担当 1977年3月末まで）
 1977年5月 大阪経済大学教養部助教授
 1985年7月 大阪経済大学教養部教授
 1986年4月 ドイツ連邦共和国・ケルン大学留学（1987年2月5日まで）
 1990年4月 大阪市立大学教養部非常勤講師（ドイツ語担当 1992年3月末まで）
 2002年4月 大阪経済大学人間科学部教授

所属学会

1968年4月 日本独文学会（現在に至る）
 1968年4月 阪神ドイツ文学会（現在に至る）
 1968年4月 クヴェレ会（1989年3月まで）
 1985年3月 ゲーテ自然科学の集い（現在に至る）
 1985年6月 日本文体協会（現在に至る）
 1990年8月 国際ゲルマニスト会議（現在に至る）
 1991年9月 美学会（現在に至る）
 1993年3月 シェリング協会（現在に至る）

- 1995年9月 ヴァイマル・ゲーテ協会（現在に至る）
 1997年4月 ヘルダー学会（現在に至る）

学会・社会活動

- 1972年4月 クヴェレ会編集委員（1974年3月まで）
 1994年11月 ゲーテ自然科学の集い幹事（2000年まで）
 1996年11月 ゲーテ自然科学の集い編集委員（1997年10月まで）
 2004年12月 阪神ドイツ文学会司会
 大杉洋氏「ゲーテ『ファウスト』における＜遠＞と＜近＞」担当（12月5日）
 2005年4月 ヘルダー学会幹事（現在に至る）
 2005年5月 大阪経済大学市民教養講座担当
 「ゲーテと現代Ⅰ」（5月21日）
 「ゲーテと現代Ⅱ」（5月28日）
 2006年5月 兵庫県立伊丹高等学校理事（現在に至る）
 2007年1月 学術講演
 「ゲーテにおけるスピノザ受容」（1月28日），スピノザ協会（於京都大学会館）

Ⅱ 業績目録

研究業績

Ⅰ 著書

1. 『現代ドイツ戯曲論集』クヴェレ会編集発行 1971年（共著）
2. 『人間科学の新展開』滝内大三・田畑稔編 ミネルヴァ書房 2005年（共著）
3. 『ゲーテとスピノザ主義』同学社 2007年（単著）

Ⅱ 訳書

1. エーミール・シュタイガー『ゲーテ』神戸大学教養部ドイツ語教室編 人文書院 1981-82年（共訳）

Ⅲ 学術論文

1. 「『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』におけるゲーテの＜形成＞の理念について」
 “Quelle” 第21号 クヴェレ会 1969年
2. 「ゲーテ『親和力』における諦念についての考察」『田中健二教授還暦記念ドイツ文学論集』大阪大学文学部独語独文科教室 1971年
3. 「ゲーテ『若きヴェールテルの悩み』について」『大阪経大論集』第99号 1974年

4. 「ゲーテの『ノヴェレ』について——古典主義的調和の理念を中心として」『大阪経大論集』第107号 1975年
5. 「ゲーテ『ヘルマンとドロテア』試論」『大阪経大論集』第109-110号 1976年
6. 「ゲーテ『ドイツ移民の談話』——ノヴェレ論的視点から」『大阪経大論集』第123号 1978年
7. 「二つの『年の市祭』について——ゲーテとペーター・ハックスの場合」“Quelle” 第33号 クヴェレ会 1980年
8. 「ゲーテ『庶出の娘』について」『大阪経大論集』第149号 1982年
9. 「ゲーテ『パンドーラ』について——美的理念としてのパンドーラ」『大阪経済大学教養部紀要』第1号 1983年
10. 『初稿ファウスト』『大阪経大論集』第164号 1985年
11. 「『ファウスト』第1部とメタファー」『大阪経済大学教養部紀要』第7号 1989年
12. 「ゲーテとポルトマン」『独文学報』第11号 大阪大学ドイツ文学会 1995年
13. 「ゲーテの歴史認識について」『大阪経大論集』第51巻第3号 2000年
14. 「ゲーテの自然認識について」『大阪経大論集』第52巻第2号 2001年
15. 「ゲーテとシラー」『ゲーテ年鑑』Vol. 44 日本ゲーテ協会 2002年
16. 「ゲーテとピエティスムス」『ドイツ文学論攷』第45号 阪神ドイツ文学会 2003年
17. 「ゲーテとスピノザ」『独文学報』第45号 大阪大学ドイツ文学会 2004年
18. 「ゲーテ『色彩論』——現象の科学」『大阪経大論集』第57巻第2号 2006年

IV 学会発表

1. 「ゲーテの『パンドーラ』における文体的特性」日本文体協会 第48回大会 於大阪電気通信大学 1985年
2. 「ゲーテ『ファウスト』第1部とメタファー」阪神ドイツ文学会 第131回研究発表会 於大阪経済大学 1989年

V 翻訳

1. 「シラー・ゲーテ往復書簡集」(1794年)『大阪経済大学教養部紀要』第15号 1997年
2. J.ノイバウアー『私は教えず、ただ物語るのみ』——ゲーテ自然科学の著作における歴史と出来事』『モルフォロギア』第20号 ゲーテ自然科学の集い 1998年

VI 研究ノート

1. 「ゲーテと形態学」『大阪経大論集』別冊 No. 1 (どんなんかな? 「学問」第1号所載) 1994年
2. 「三たびヴァイマルにて」『大阪経済大学教養部紀要』第17号 1999年
3. 「小栗孝則とアルベルト・シュバイツァー」“Berichte” 第45号 日本ゲーテ協会 2004年

4. 「魔女迫害とユダヤ人迫害」“Flaschenpost” Nr.26 ゲルマニスティネンの会 2005年

Ⅶ 書 評

1. 「ゲーテ自然学への解釈学的アプローチ」(河本英夫著『自然の解釈学——ゲーテ自然学再考』海鳴社 1987年)『モルフォロギア』第7号 ゲーテ自然科学の集い 1992年
2. 「人智学的視座にもとづくゲーテ解釈」(R. シュタイナー著『ゲーテの世界観』溝井高志訳 晃洋書房 1995年)『モルフォロギア』第19号 1997年
3. 「色彩の進化——ゲーテ色彩論の新しい見方」(Reinhold Sölch: “Die Evolution der Farbe. Goethes Farbenlehre in neuem Licht.” Leipzig 1998.)『モルフォロギア』第21号 ゲーテ自然科学の集い 1999年

Ⅷ 文献紹介

1. 「生と死と再生の比喩としてのファラエナ・グロッスラリアー I. グラハム『ゲーテー 見ることと信じること』」(Ilse Graham: “Goethe. Schauen und Glauben.” Berlin 1988)『モルフォロギア』第13号 ゲーテ自然科学の集い 1991年
2. 「環境破壊と全体性回復への希求——G. アルトナー『もう一つの科学の先駆者としてのゲーテ』」(Günter Altner: “Goethe as a Forerunner of Alternative Science.” in “Goethe and the Sciences: A Reappraisal.” Edited by F. Amrine/F. J. Zucker/H. Wheeley, Dordrecht/Boston/Lancaster/Tokyo 1987 p. 341-350)『モルフォロギア』第14号 1992年
3. 「ヘーゲル美学と『ファウスト』の関係を再考する——R. ブブナー『ヘーゲルとゲーテ』」(Rüdiger Bubner: “Hegel und Goethe.” Heidelberg 1978)『モルフォロギア』第18号 ゲーテ自然科学の集い 1996年

Ⅸ 資 料

1. 「ゲーテ生誕250周年新聞記事から」『モルフォロギア』第21号 1999年

X 雑 録

1. 「ヨーロッパ文化論あれこれ」『大阪経済大学教養部紀要』第19号(特別号) 2001年

XI 教科書

1. Arthur Schnitzler: „Ein Erfolg.“ (「成功はしたけれど」) 同学社 1982年 (共編・ドイツ語中級読物)